

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 6 月 9 日 (2005.6.9)

【公開番号】特開 2001-194284 (P2001-194284A)
 【公開日】平成 13 年 7 月 19 日 (2001.7.19)
 【出願番号】特願 2000-6119 (P2000-6119)
 【国際特許分類第 7 版】
 G 0 1 N 13/10
 【F I】
 G 0 1 N 13/10 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 8 月 23 日 (2004.8.23)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 0 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 0 7】

図 3 のラスタ走査法で、高分解能測定を行う場合には、X 方法の走査単位及び、Y 方向の走査単位の数大きくする必要があるが、測定のスループットは Y 方向の走査単位の数と反比例の関係にある。つまり、X 方向の 1 ライン走査毎の時間を t とすると、面内の全体の測定時間は、 $t \times (Y \text{ 方向の走査単位の数})$ となり、測定分解能を向上させるために Y 方向の走査単位数を大きくすると、測定時間が長くなることになる。また、高速測定を行う場合は、Y 方向の走査単位数を小さくする必要があり、このことは測定分解能を犠牲にすることになる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 0】

このようにマッピングされたデータの画素数が収集されたデータ点数より多い場合が請求項 2 に記載した、本発明での実施例であり、この例の場合擬似的に収集したデータ点数の 4 倍のマッピング画素数となる。